

## 2 成果をふまえての課題

### (1) 国語アンケートの結果と分析

本校では、国語科についての「国語アンケート」を令和6年度と令和7年度の2回行った。設問は、次に示すように本校の研究に沿った子どもの意識が計れるものである。

- 国語科に関する関心・意欲・学びに向かう態度
- 自らの考えをもつことに関すること
- 学習問題を解決していく過程に関すること
- 読書活動に関すること

#### ① 実施時期

第1回 令和6年9月

第2回 令和7年7月

#### ② 結果の考察

第1回アンケート結果から、以下のような成果と課題が挙げられた。

- ・ 全体的に話し合いを中心とした授業や学習問題をみんなで話し合って解決する授業が好きと感じている子どもが多い。しかし、個々をみると全体の中で発言することに苦手意識をもっていたり話し合いが苦手と感じたりしている子どもも一部いる。そのため、個々に合わせた目標設定をし、伝え合う喜びや話したり聞いたりすることから学ぶ意義を実感できる授業展開を工夫するなど、何らかの手立てが必要である。
- ・ 書くことに苦手意識をもっている子どもの割合が高い。書く必要性を感じるような指導の工夫や書き残しておくことの大切さを感じられるような経験、子どもたちが目的意識をもって書きたいと感じるような学習活動の設定が必要である。
- ・ 国語科の学習が好きだと感じている子どもの割合が高いが、実際には学習に向かう姿には差があり、一人一人が自らの問いを追求する力を高められる授業の工夫改善が求められる。

本校のすべての教職員がこれらの課題を共有し、子ども自らが問いをもち追求する授業を目指し取り組んできた。第2回アンケートでは、ほとんどの項目において肯定的評価の割合が高くなり、取組の成果が表れたと捉えている。

※アンケートの結果の詳細については、補助資料（徳島県小学校教育研究会国語（書写）部会のホームページで公開）をご覧ください。

## (2) 課題

- ① 子どもたちはいろいろなことに目を向け、問いをもつようになり、その問いも次第と学習目標に準じたものになってきている。子ども一人一人がもつ問いについてできるだけ学級で考えていきたいが、時間的にも制限がある。「授業で取り上げみんなで考えるもの」、「授業以外で発展的に取り扱うもの」、「一人一人が解決していくもの」等、その問いの質や教育的価値を見極め、分類する必要がある。その問いが子どもたちが話し合い高め合える学習問題になり得るかどうか判断しなくてはならない。また、場合によっては、教師から子どもたちに問いかけ、子どもたちの心をゆさぶり、それぞれの考えを出し合うことで学びを深めることもある。
- ② 子どもたちのアンケートの回答から、漢字などの国語の基礎基本の学習に苦手意識をもっている子が多いことが分かってきた。国語科の学習は基礎基本がすべてであると認識している子どももまだ一定数おり、それはわたしたち教職員が潜在的にもっている意識が反映されている部分もあると感じる。問いを追求する過程の中で、子どもたちに基礎基本を定着させるという授業展開に、教職員の意識を転換させる必要がある。まずは教職員自身が問いをもつて学ぶ姿勢を常に意識し、子どもたちが問いを追求していく支援・指導にあたらなければならない。
- ③ 子ども一人一人の考えが十分に形成できていないうちに話し合いで意見を共有することもあった。自分の考えをしっかりもち、考えを形成・整理する時間なのか、共有する時間なのかを明確にして授業を進めていくことが大切である。子どもたちが考えを形成し、互いに共有する中でじっくり学びに向かい考えを深める時間を確保していく必要がある。
- ④ 子どもたちが自分の考えを表現できるよう工夫を重ねてきたため、授業の中で友達と考えを共有し「考えたり話したりするのが楽しい」「自分の考えをまわりに伝えている」と感じる子どもの割合も高くなってきており成果が表れてきたが、深い話し合いや学びにまで至っていない場合もあった。自分の考えが友達の考えを聞くことで変容したと自覚したり、深まっていることを実感できたりするようなふり返りの形態を考えていきたい。
- ⑤ 学習において子どもたちは自ら問いをもち、自分の考えや思いをもちそれを共有することで学びを深め追求することができている。これからの変化の激しい社会に生きる子どもたちが、このような学び方を自らの生活にいかし、日常生活の様々な問題に気づき自ら解決しようとすることを期待する。